

# 緑窓



青山学院中等部緑窓会会報

第7号

1998年(平成10年)5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 外崎宏司

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話 03-3498-5387

## 人生の午前について

中等部緑窓会会長 外崎宏司(二期)

また会報発行の時になりました。昨年の「緑窓会の日」は中等部の創立五十周年行事に合わせて、例年よりも大規模に、華やかに開くことができました。改めてお礼を申しあげます。五十周年という時間の流れも、月並みな言葉ですが、当時在籍していた私どもにはまるで昨日のことのようです。

先日例年のように、中等部の新卒業生、つまりは緑窓会の新会員のみなさんに歓迎のご挨拶を述べました。その中で、なぜ若い日の学校の仲間がこんな魅力があるのかを語って、それは「人生の午前」の時間を、朝の光の中を一緒に歩き、匂うような草の中を一緒に走ったからだ、申しました。多分年若い今年の卒業生はあまり分かってはくれなかったと思います。いずれ分かることです。将来を期待しましょう。

五十年前、東京は廃墟であり、雪でも降らなければ見えないように薄汚れた都市でした。目の前にある廃墟を片付け、光輝く世界を作ること、人々は一致していたと思います。五十年後、光輝く都市は実現し、巨大な堅固な建物の連続が日本中を覆い、快適な生活がどこにいても得られる。しかし、もしかしたらこの堅固な都市を築く場所が違っていたのではないかと思う人々がかなりいるように思えます。都市は都市の廃墟の上ではなく、人の心の中に築かなければならなかったのではないかと。どうやら私たちは巨大な形ある都市を得て、形のない都を失ったのではないかと。卒業生諸君の賛美歌を聴きながら、「形のない都」について思い描ききっかけを与えてくれたのは、まさにここ、この学校だったと思う一日でした。

## 第九回「緑窓会の日」 平成十年六月六日(土)

実行委員長 今村和久(十期)

今年も六月六日(土)午後一時半より「緑窓会の日」が開催されます。毎年六月初めの土曜日に開催され、緑窓会員相互の交流を深め、青山学院の精神を営々と伝承していかうとされています。昨年は中等部の創立五十周年の記念の年に合わせて盛大に催されました。今年はこちらを継続しつつも、内容は青山学院らしく、楽しみながらも少しばかり世の中のことをより多く知ってみたいという主旨にしてみました。

そこで礼拝には青山学院大学経済学部教授で宗教学主任の東方敬信先生(高等部十期)に非常にわかりやすい説教を頂き、また、アムネスティインターナショナル日本支部長のイーデ

ス・ハンソン女史に国際社会における人の権利などについて大いに語って頂けることになりました。また、女史の希望でお菓子を食べながらのお茶の会に参加してもらい自由に語り合える機会もつくりました。難しい、堅い話とはならないので御安心ください。ある年齢以上の方々は、テレビなどを通して女史が明るく楽しい方であることをご存知だと思います。今年も互いに懐かしみ、楽しい日にしましょう。お友達を含めて一人でも多くの方々が御参加されるようお待ちしております。

## 田中先生ありがとうございました

この度ご勇退なさいました田中先生に、思い出をお話しいただきました。

### 若い頃の思い出

前高中部部長 田中俊夫



昭和三十年、私が中等部に赴任した頃は、まだ木造校舎で、歩くと床が少し凹んだり軋んだりし、暖房も石炭ストーブであったことが懐しく思い出されます。日本の景気は専ら右肩上りで、学校の雰囲気も自由闊達で開拓精神にも似た活気が感じられました。制服もなく自由服ですから、女子の衣服には特に個性が発揮され、卒業式時にはフアッシュンショウさながらでありました。しかしその後女子の制服が前年の男子に次いで、昭和三十五年現在のデザインのものに決められました。

広島県上下高校時代の経験を生かして、英語研究会をつくり、雑誌や絵本の翻訳と発表をしたり、英語暗誦大会の運営に生徒と共に精出していた頃が偲ばれます。翌年の三十一年には、早くも学校行事として第一回英語暗誦大会を開催でき、以後長年にわたって続けられました。この行事を支援、協力してくださった同僚の先生方や会員の生徒達、その他自主的に大会に参加して頂いた多くの生徒の皆さんに改めて深く感謝いたします。中等部の草創期から英語教育には力が注がれ、早くから外人教師の導入がなされ、L1教室も優先的に設けて必修授業に大いに用いられました。

若い頃は失敗も多く、ある時は英語研究会の生徒数人を連れて相模湖にハイキングに行った折、道に迷って冷汗をかいたこともあり、またある時は、初めて外人ゲストの接待役を担当している際、Laboratory (L1教室の略)へ案内するように頼まれたのに、焦って聴き間違えLAVATORY (トイレ) に連れて行き赤面したこともあります。

その当時から現在の中等部に至るまで、様々な変遷を辿って来ましたが、変わらないのは毎日の礼拝と英語教育重視です。この両方共今の国際社会の中でとても大切だと思います。

終りに卒業生の皆さまが神の恵の中に健康で益々ご活躍なさいますよう祈ります。

## 新高中部部長の大村先生(十一期)をご紹介致します

### 高中部部長就任のご挨拶

新高中部部長 大村修文 ただふみ



中等部の卒業生の皆様、お元気で過ごしていらっしゃいますか。この度、田中俊夫部長の退任に伴い、高中部部長に任せられました。微力ながら精一杯頑張らせていただきます。私は中等部十一期生でありまして、こうしたご挨拶をするのは心苦しいのですが、今回、部長の立場の説明が必要と考えますので、簡単に申し上げます。

青山学院は中等部と高等部を高中部として組織上一つにし、部長を一人にしております。これは昨今世間で望まれている中高一貫教育を推進する理念としてはよいとしても、実際は校舎も離れており、歴史的伝統が異なる中高を完全に一本化することは困難です。発達段階の異なる子供達を日常的に一つにして教育することが困難なこと、何よりその生徒数から見ても、部長が両部を見ることは時間的にも精神的にも不可能に近く、生徒、教職員のためにならないことなどから、四年前より副部長の制度を設け、部長が普段いない方の部を副部長が見ることとなりました。昨年度までは田中部長が中等部におられました。今年度からは私が部長として高等部におり、布施英俊副部長が中等部を担当することになりました。部長（法律上の校長）は私が中高とも兼ね、その最終的責任を負いますが、実質的に生徒に配慮・対応し、職員をまとめる役は布施副部長ということになります。ご理解いただきたく存じます。今後とも、中等部のためよろしくお願い申し上げます。

会期より  
同だより

## 十期

家次二郎

昨年十月二十五日に七年振りの同期会を青学会館で開催しました。同窓会とクラス会の中間的曖昧さを持つ同期会などやって意味があるのか?と思っていたが、生来の巻き込まれ易い性格を見透かされ、お手伝いを真面目にやりました。

当初は、花をふんだんに飾り、照明を少し暗めにして、懐かしい当時の音楽を流し等々夢は広がったが、近づくにつれ「なるべく会費を押さえ、誰もが来やすい」との基本コンセプトとの矛盾がはつきりして、花はしほんで夢もチヨッピリしほんだ。

当日は、長年に渡り語り続けてきて加速がついている上、老化防止はしゃべる事との説をマジメに学会に発表しようか、と考えた程元気な諸先生方(全員中等部を「卒業」済み)とその先生と見分けがつかない程、エー、つまりその、貫禄と押し出し(と言っておきましょうか)の五十代半ばの六十九名が集まり、それはもうむせかえる様な、恐ろしい様な雰囲気でした。

二次会、三次会……。何が起ったかは口が裂けても言えません。幕場迄持って行きます。私も誰かに抱き付いたような気がしないでもないのでございます。さて写真を整理し、訂正したクラス別名簿と会計報告をまとめ、余ったお



金で「チャンタミット」(タイのバンコックに有るハンセン病患者を支援するキリスト教系施設。緑窓会が継続的に支援しています)に寄付と十期会基金を作り、事後処理も完了。

当初の思いとは違い、諸事情からクラス会が余り開かれないクラスも在る由、同期会も「合同クラス会」と考えればやってみる意味もある、と思うようになりました。

来たる六月六日の「緑窓会の日」に参加して懐かしい中等部の雰囲気浸った後、引き続き同期会(又はクラス会)はいかがでしょうか。昨年は「緑窓会の日」に六つの同期会が開催されました。お勧め致します。

会期より  
同だより

## 二十一期

磯部守孝

九十七年もおし迫る十二月十三日(土)に一泊で二十一期の同期会を伊豆湯ヶ島の落合楼で行いました。そもそもこんなハズではなかったのですが、私が「今度みんなで落合楼に行ってみよう」と口を滑らせたのが発端らしく、いつの間にか五年ぶりの同期会へと拡大してしまいましたが、師走の多忙な時期や一泊なんてとても無理、という方々のことを考えると我々だけ楽しんでしまつて申し訳ない気持ちで一杯です。そうです、とっても楽しかったです。往復貸切バスの中、充分に中年の我々はさまざま宴会状態に突入し、四時間程



青山学院中等部同期会 於伊豆湯ヶ島落合楼 11.9.12.13

の混んだ旅路もあつたという間でしたし、お待ちかねの落合楼は想像をはるかに越える広さで、足立君の配慮で豪華な客室をゆつたりと提供してもらつて殿様気分。露天風呂でくつろいだ後の宴会も二次会三次会へと深夜まで盛り上がり、中には朝まで歌いまくった達人もいたとかいかなかったとか。参加者は足立君も含めて二十八名、先生は残念ながら武田先生お一人で淋しい思いをさせてしまいました。が、学生時代には存在すらおぼろげだった人達とも意気投合でき、何より普通の同期会では絶対にお目にかかれない、いや見てはいけない意外な一面も拝見させていただきました。大収穫の伊豆の旅でした。

## この「緑窓」への原稿募集

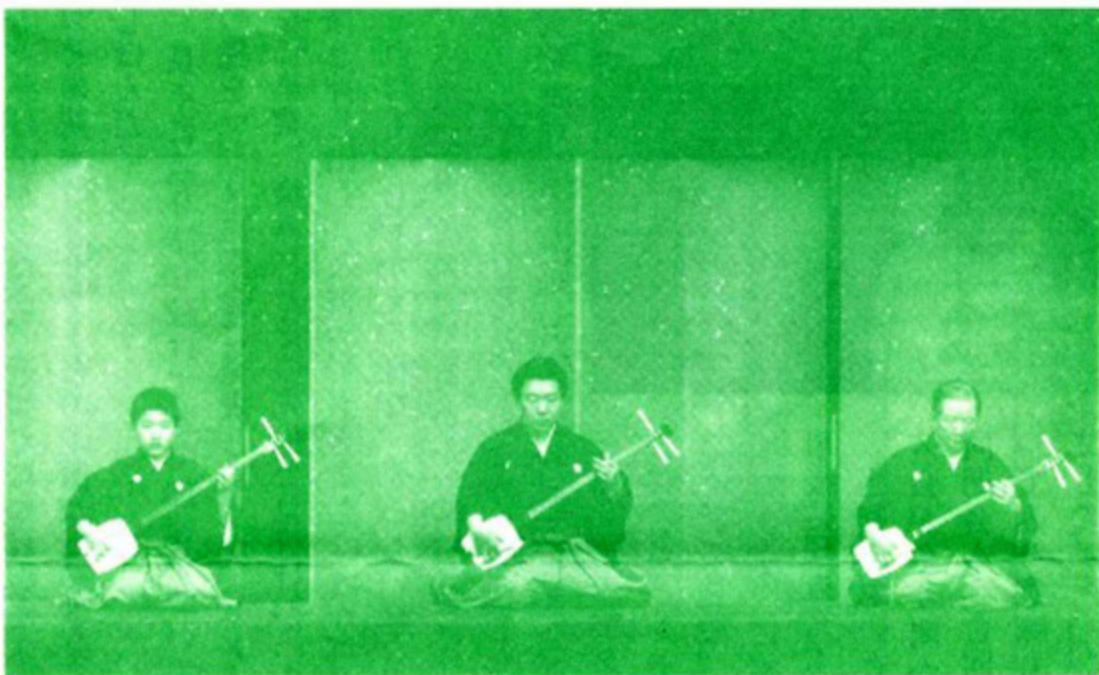
同窓の方々の原稿をお待ちしています。

クラス会、同窓会などの開催予定や海外で生活して活躍されている友人の近況、旅行記、楽しいエピソードなど、また同窓の経営されているお店の紹介など、皆様からの原稿や写真をお待ちしています。「緑窓」は毎年五月発行です。ので、三月までに届いた原稿はその年に載ります。皆様楽しく読んでいただける会報をめざしています。ご協力お願いします。原稿は、緑窓会事務局まで。

七世杵屋勘五郎(杵家弘和 21期)襲名披露会

平成十年三月一日、三宅坂の国立小劇場において、長唄宗家二世杵屋寒玉師、家元七世勘五郎さんの襲名披露会が開かれました。

当日は、「春は名のみ風の寒さや……」と大正、昭和、平成と長い間、歌い継がれてきた「早春賦（そうしゅんふ）」という愛唱歌で歌われているような寒さの厳しい日でしたが、万葉の時代よりお日出度いシンボルとしての大雪も加わり、温かいご支援の方々がお会場



五郎を埋めつくしておりま  
勘五郎  
七世  
中央  
した。

この日、祖父の寒玉さん、父上の勘五郎さん、ご長男の正和さんが廣吉の名を継がれ、「小鍛冶」を三代で共演され、特に正和さんは見事なばらさばきで、案じていらした杵屋ファミリーや会場で温かく見守っている大勢の方々をほっとさせました。

また、ご次男の光孝さんは直光の名を継がれて、堂々と長唄「松の緑」を唄われました。この時は、父上の勘五郎さんと姉上の里紗子さんは三味線で弟さんを支援され、見事な親と子（姉弟）の

共演で、まことに心が和みました。

私は、勘五郎さんが初等部在学中に四年間、クラス担任としてのご縁で、ご一家の豊かな成長ぶりを、遠くから見つめさせて頂いていることを幸に思います。

これからの杵屋家の方々のご健勝と日本伝統芸能の長唄文化のご発展を、皆さまと共に念じ申し上げます。

杵家さんの恩師 阿部昭伍先生記

長野オリンピックで活躍された河合彩さん

吉田恵子(十五期)



長野オリンピックのスケート部門、アイスダンスに日本代表として出場した河合彩さんは、幼稚園から青山学院に通い現在は、教育学部三年生。フランスでの練習に出席する直前のあわただしい時間をさいて、インタビューにに応じていただきました。

吉田 オリンピック、お疲れさまでした。いかがでしたか？

河合 自分の国で開催されるオリンピックに一番いい時期に出場できて最高に幸せだったと思います。家族や友人、それに青学で担任して下さった先生が応援にきてくれ、その前で演技できてうれしかったです。

吉田 スケートを始めたきっかけは何ですか？

河合 青山の幼稚園で仲良しの友だちがスケートを習っており、その子と一緒にいたいと思って私も始めました。

吉田 大変だったことは何でしょうか？

河合 経済的なことは別として、アイスダンスを本格的に始めたのが高等部時代ですが、筋力が全くなかったので、トレーニングを重ねて徐々に体を作ってきました。この過程が苦労だったかな。でもどうにもならない怪我とか故障はありませんでしたね。

吉田 最後に中等部時代の思い出をお聞かせくださいませんか？

河合 あの頃は遊びたい盛りでフィギュアスケートも片手間だったかなとは思っています。クラブ活動（バレーボール部）に熱中して毎日そればかりしていました。

吉田 お忙しい中、今日はありがとうございました。

※三月にアメリカ・ミネアポリスで開催される選手権の後は、引退して学生生活に戻るそうです。

中等部創立50周年を記念して、  
緑窓会より中等部へ  
堀川理万子さん(32期)の絵を寄贈しました。



「ゆり」(テンペラ画・50号)

このたび「五十年誌」の装画をかかせていただいたのが緑窓会、中等部の創立五十年の記念品にこの絵を使って頂き、大変光栄に存じております。部長室に掛けていただき、卒業生としてこんな嬉しいことはございません。私は、タブローをかき、毎年銀座(麻樹画廊にて一九九九年一月二十日(水))と京都で個展をするかたわら、児童文学の挿絵や、単行本の表紙、季刊誌の表紙画(別冊文芸春秋)などのしごとをしていきます。今度の五月二十五日から、短大のギャラリーで、私の作品の展示をしますのでおついでがありましたらごらんください。

(緑窓会)

「緑窓会の日」開催報告

一九九七年実行委員長 細田洋(九期) 他委員一同

一九九七年六月十四日(土)、青山学院講堂に於て、第八回「緑窓会の日」が開催されました。「原点、祝祭、継続」のテーマに加えて中等部創立五十年を迎え、前年からの記念行事のしめくくりとして、諸先生方、同窓生、中等部父母の方達の御出席で意義ある会となりました。

例年通り、礼拝に始まり、佐古純一郎先生による「隣人とは誰か」をテーマにより良いお話がありました。地下食堂でのティータイムでは、懐しい先生、友人としばし、話に夢中になり、楽しい時を過ごしました。

三部は、小椋佳氏の講演「二休みそして一休断」で、豊富な経歴から、率直で分かり易い語り、私達の心をじんとさせました。又「シクラメンのかほり」に代表される懐しい歌や、最近流行の歌の澄んだ声に舞台と客席が一つになって時の流れが止ったような気がしました。

礼拝での献金は、タイのチャンタミットに寄付されました。多くの方々のお心を深く感謝致します。

尚、「緑窓会の日」開催に当り、多くの会員の方の御協力をいただき、ここに厚く御礼申し上げます。今年の「緑窓会の日」にお会いできるのを楽しみにしています。

「青山学院中等部の50年一九四七〜一九九六」ができました

「五十年誌」緑窓会編集委員会 松本紀子(二期)

「青山学院中等部の50年」は一九九七年六月刊行になりました。中等部五十周年の記念事業の一環として企画され、石出道雄先生が総編集長格で、中部編集委員の先生方と、緑窓会の編集委員の共同編集で内容の企画と作業が進められました。単に「昔はこうだった」というのではなく、中部部の歴史と今日が見えるものにしたということ全員が一致しました。

石出先生のまとめて下さった、学校としての「沿革」「年表」を太い背骨として、先輩、現役の先生方の座談会、一期から五十期の生徒たちが思い思いに語る中等部の日々、記録データなどが豊かな肉づけとなりました。井上ゆり子さん(二期)の労作「青山学院中等部誕生・一九四七年の青空」、木畑昌長さん(一期)の周辺地図の変遷も特色です。堀川理万子さん(三十二期)が美しい百合の花で表紙を飾ってくださいました。

多くの方々のご尽力でやっとでき上がったという感じです。どうかお目通しください。

五十年誌は二十世紀の中等部です。二十一世紀の明日を楽しみにしたいと思います。

自然をみつける物語 全4巻

ほくと妹のミカが出会ったふしぎな自然

- 第一巻 川との出会い
- 第二巻 森の時間
- 第三巻 山のひみつ
- 第四巻 島への旅

小野有五(十四期)



に移り、日本ではもつともよく自然の残っているはずのこの島でも、ほとんど自然が破壊されていくようすを身近に見て、自然保護をめざした仕事も始める。とくに若い人に自然の大切さ、ひとりひとりの個性の大切さを知ってほしいと思ひ、このシリーズを書くことにする。現在は北海道大学地球環境科学研究科教授。また市民団体「北海道の森と川を語る会」の代表もつとめる。

一九四八年、東京生まれ。小学校では昆虫少年。中学校時代山と化石のおもしろさを知り、大学では地質学を専攻。氷河を研究して、氷河時代から現在までの山の自然の歴史をさぐる。日本の山ばかりでなく、アルプスやヒマラヤの山々にも登る。十年前から北海道

ジョン・モリスの戦中ニッポン滞在記

鈴木理恵子(三十七期)



外務省顧問として太平洋戦争開始前後の東京に滞在したイギリス人、ジョン・モリスの私的見聞録であり、吉田茂やジョセフ・ケルー駐日アメリカ大使らと親交が深く、戦後日本の方向付けに少なからぬ影響を与えた人物の敵国分析でもある「トラベラー・フロム・トーキョー(原書題名)」。彼の視点を通じた日本、また日本人の姿は、戦争というところあるステレオタイプにイメージがとられがちな日本人にこそ、新鮮な発見になると思います。

「とても良い内容なのに地味」と、不況の中パツと目を引く本を求める編集者たちには出版を断られ続けましたが、三年近くに及ぶ長期妊娠後、やっと「オギヤ」と日本語で産声を上げさせることができました。

中等部での歴史の授業を振り返ることのできない現在進行形歴史オンの私が歴史物を翻訳するなんて、自分でも不思議なくらいですが、原書の一読者として内容の面白さは請け合いますので、ぜひ読んでみて下さい。

## 校友会オリジナルグッズが誕生しました!

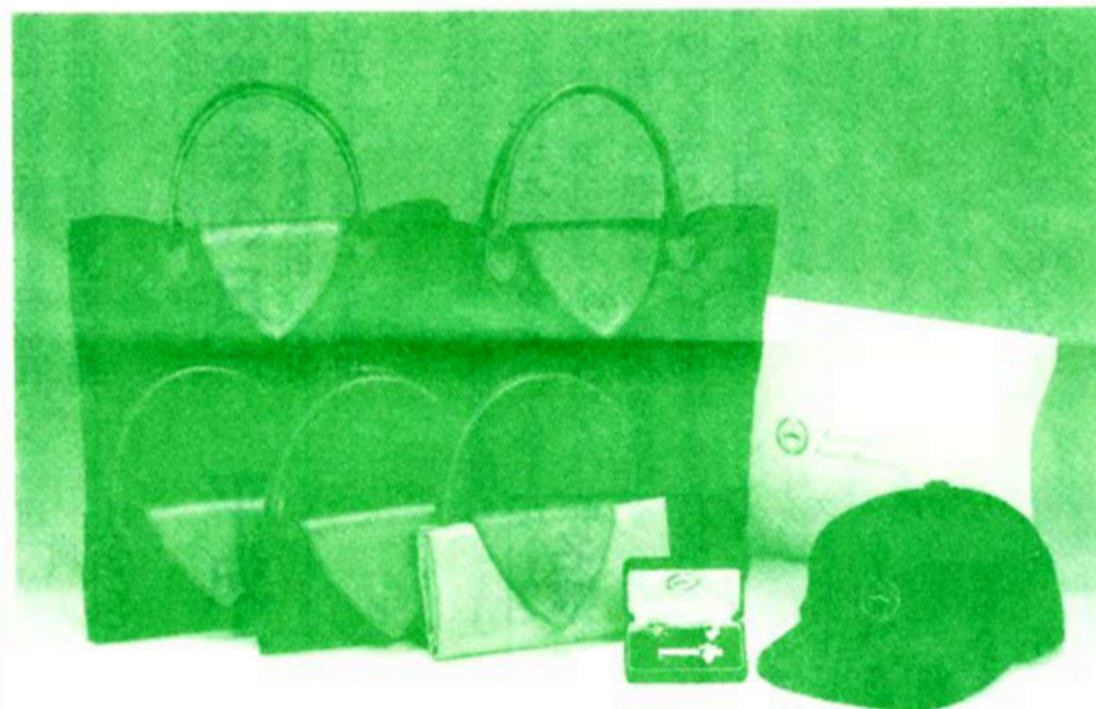
来る21世紀は卒業生一人ひとりが母校を支える時代です。

このたび校友会では、全校友と学院との精神的な絆をより深めることを目的に、オール青山を対象としたオリジナルグッズを企画・販売することになりました。学院への協力の一つの形として、売上の純益は青山学院(「青山学院維持協力会」)への献金とさせていただきます。

グッズは私たち卒業生が、デザイン、品質、素材等にいたるまで、こだわりをもって一から考え、検討に検討を重ねて完成した限定品です。今まではなかった青学らしい上品でおしゃれなグッズと一同大いに自負しております。ご使用になることに母校青山学院を覚えていただければ幸いです。一人でも多くの方にグッズをご購入いただき、また同窓のご友人にご紹介くださることをお願いいたします。

社団法人 青山学院校友会  
オリジナルグッズ 検討会一同

消費税不要、なおプレゼント用オリジナルギフトボックス(別売二〇〇円)もございます。



### 《購入方法》

#### 一、販売窓口

直接お越しいただければ、お買い求めいただけます。校友会本部事務局(青学会館本館二階)、青山学院購買会(青山キャンパス 大学十二号館一階 受付カウンター)で日常取り扱う他、部会、同窓会、支部等主催のバザー、パーティー会場等でも販売の予定です。

#### 二、通販

お電話一本! 全国どこへでもお届けします。

・宅急便代引システム(着払い)利用

(到着時に商品代金の他、送料および代引手数料がかかります。)

・配達日指定可能

#### ●お申し込みは

青山学院購買会 オリジナルグッズ受付係

電話 03(3409)4401

FAX 03(3409)1889

ご不明の点は、青山学院校友会本部事務局

03(3409)8628まで

## お・知・ら・せ

### 五期

中等部高等部の皆様、お変わりございませんか。今年度は還暦を迎え、久し振りに同期の集いを計画致しました。是非ご参加下さいますようお願い致します。

日時 平成十年十月十七日(土) 六時頃から  
場所 青学会館「ミルトス」

詳細は後程お知らせ致します。

五期世話人一同

### 十三期

日時 五月三十日(土) 午後六時  
場所 ゴールデンホール  
(東急文化会館)

初めての同期会です。懐かしい人たちとの再会に奮って御参加下さい! 後日お知らせ致します。

幹事 塩坂(旧姓) 永井

中川(旧姓) 杉山

### 二十三期

日時 六月六日(土) 「緑窓会の日」終了後  
午後六時  
場所 青学会館にて二十三期同窓会を行います。

三年間お世話になった先生方がいらして下さいませ。どうぞ奮って御参加下さい。

連絡先 神在

## 中等部便り

中等部教諭 石出道雄

### ★教職員の異動

今年三月で退職・移動された教職員です。

#### \*田中俊夫先生

一九五五年四月から一九七二年三月までの十七年間、その後高等部で一九九〇年三月までの十八年間、それぞれの部で英語科教師として勤められました。

一九九〇年四月から故志賀部長の下での教頭として中等部へ戻られ、志賀部長召天後部長代行として、また一九九六年四月からは中等部第十代部長として勤められました。

中等部・高等部を合わせて四十二年間を青山学院で奉職なさいました。

#### \*坂上三男先生

一九九六年四月に高等部宗教主任から中等部聖書科教師として移動され、石井道夫宗教主任が教頭になられたことにより中等部宗教主任として延べ二年間中等部に勤められました。

この四月より高等部宗教主任として高等部へ移動されました。

### ★一九九八年度高中部中等部人事

部長 大村修文先生  
 副部長 布施英俊先生  
 教頭 奥津光佑先生  
 宗教主任 石丸泰樹先生  
 教務主任 小田井孝先生  
 指導主任 山本与志春先生

### ★青山学院中等部の50年

残部が少なくなっています。購入御希望の方は緑窓会事務局まで御申し込み下さい。

緑窓会事務局

電話 〇三(三四九八) 五三三七

## 事務局だより

副会長 豎村美恵子(五期)

会員の皆様や、ボランティアでお手伝い下さる各期の委員の方々のご協力により、年一回の「緑窓会の日」も定着し、それに伴い名簿も日々充実してまいりました。ご協力に感謝し、今後共若い期の方々のお手伝いも期待しております。緑窓会事務局は毎週火曜日の一時から四時半まで開いておりますので、是非皆様のご参加をお待ちしております。住所変更などは、ファックスにても常時受け付けて居りますので、ご連絡下さい。

尚、十一月七日(土)、八日(日)の中等部の文化祭に於いて、緑窓会の部屋を設けることになりました。お問い合わせの上、お立ち寄り下さい。

緑窓会事務局

〒150・0002

渋谷区渋谷四・四・二十五

電話&ファックス 〇三(三四九八) 五三三七

## 名簿システム検討委員会発足

副会長 白井茂(六期)

緑窓会の会員名簿は、十年程前の同窓会活動再開の時から、高等部同窓会のシステムの上に乗った形で維持されてきました。

この度、高等部同窓会が大日本印刷への外注をやめて、独自で名簿管理を行うのを機に、緑窓会としても、名簿管理をどうするべきか、基本から検討する事とし、委員会を発足させました。委員は、正副会長及び、志賀(四期)、中野、梅津(十期)、小野(十一期)、松田(十四期)、富士野(二十二期)の九名です。

現在までに二回の委員会が開かれ、名簿管理の基本は何か、どう処理したら良いか等が討議されました。

八月末を目途に全体の仕組みを決め、来年早々には新しいシステムをスタートさせる予定ですが、今のところ緑窓会の中にパソコンを置いて、自主管理しようという意見が大勢です。